



Title	編集後記
Author(s)	中川, 幸久
Citation	長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要, 9, p.55; 2018
Issue Date	2018-03-01
URL	http://hdl.handle.net/10069/38529
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-25T16:12:57Z

長崎大学 大学教育イノベーションセンター紀要（第9号）編集後記

大学教育イノベーションセンターでは、「長崎大学 大学教育イノベーションセンター紀要」を年度末に発刊していますが、今回で第9号を数えることになりました。

紀要の形態は、大学の教育改善や入試選抜方法の改善等に関わる研究論文（査読付き）、一般論文、実践報告、研究ノート等として掲載することとされていますが、その内容は本学の改革に関するもののみならず、様々な見地からの論考や調査研究、授業実践報告ほか幅広く自由な大学教育論議が展開されています。

今回、皆様のご協力で、一般論文4編、事業報告1編が寄せられ、テーマも、「企業が大学者に求める能力・態度と分脈」「受講する価値のある哲学の授業をいかにして設計すべきか」「高校生における将来の展望、学習時間、動機づけ及び学習方略に関する検討」「パフォーマンス・アセスメントとその意義」など、幅広く内容豊富な紀要となりました。寄稿された皆様に改めて感謝申し上げます。

平成29年11月に策定された「平成32年度以降の国立大学の入学者選抜制度の国立大学協会の基本方針」では、冒頭に、「社会の変化の速度と複雑さが増す21世紀においては、一人一人の能力の高度化が必須であり、国民一人一人が高等教育を通じて、深化し続ける専門分野に対応可能な基礎知識の拡充と応用力を伴う多様なスキルを獲得することは、国民に自律的成長力と豊かな人生をもたらす。」と述べています。

変化の激しい社会の中で直面する様々な課題を乗り越える人材を如何に育成し、輩出するか、大学に寄せられる期待は大きいものがあります。

本学においても3ポリシーに基づく教育実践が展開されようとしており、センターでは、大学が学生にとって深い学びの場になるよう、実践と検証を繰り返しながら研究を進めています。ここに挙げられた研究は、その一つでもあります。

今後の大学改革に直接または間接に係わる貴重な資料でもあり、大いに活用されることを念じています。誠実に研究を進める教員としての矜持を、読者に感じ入っていただければ幸甚に存じます。

平成30（2018）年3月

編集委員を代表して 中川 幸久